

## 総括討論

吉田和浩（広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）教授）

ありがとうございます。壇上のレイアウトを変更する予定でしたが、時間が押しているため、レイアウトはこのままで最後のまとめに入りたいと思います。今年国際教育協力日本フォーラムのアイデアが決まったときから、幅広い議論が出ると思っていました。今日の討議をまとめるのは非常に難しいです。このフォーラムの目的は何らかの結論を出すことではなく、様々な問題に対して活発な討議をすることです。合意やコンセンサスに至るのは目的ではありませんが、いかに援助の有効性を高められるか、教育援助の有効性とは何かを考える大きなお土産を、フォーラムにご参加くださった皆様にお持ち帰りいただけたらと思います。また、援助依存のテーマについて考える糧を提供できたらと思います。山田先生が指摘されたパラダイムシフトをいかに定義するかについても、このフォーラムでは多くのインプットがありました。昨年11月釜山では援助の有効性が討議され、援助の有効性から相互に学ぶパートナーシップの構築に転換するべきだという提言が出されました。国際協力においては、ただ援助するのではなく開発を達成するために互いに協力し合うのが日本の援助だと言われています。ここでも考え方のパラダイムシフトがあります。今日は二つの基調講演とパネルセッションがあり、すべてをまとめることは不可能です。二人の基調講演者とナンポタ博士に最後のコメントいただきたいと思いますが、その前に今日のフォーラムで討議された要点のいくつかをまとめたいと思います。

一つはODAです。ODAの役割は大きく変わってきています。開発途上国の開発課題もODAの位置付けも変わり、新興ドナーや民間セクターも役割を担うようになりました。教育セクターでも、ドナーと政府は対等のパートナーです。このようなことが主な話題でした。新興ドナーや民間セクターなどアクターが多様化していることで、援助の有効性をめぐる状況も変わっています。EFAやMDGsを達成する目標年の2015年が刻々と近づいています。教育はその目標の一つで、初等教育の完全普及を目指しており、これまでに前進も見られています。次のステップや2015年以降の課題として、大学を卒業することが重要であるだけでなく、学校で何を学べるか、何が将来の職業に結びつくかも重要です。このように今日は初等教育だけでなく、我々は何をすべきかについて討議しました。EFAの目標に関しては、恵まれない子どもたちや公正など、2015年までに取り組むべき残された問題があります。2015年以降については、EFAの課題を今こそ考えなければならないときであり、この点が注目されます。一方、ますますグローバル化が進む中、その恩恵を享受するためには、人々は知識集約型社会で活動できなければなりません。そのためには高等教育がたいへん重要です。アフリカの教育では何が優先事項となるのでしょうか。正しい答えは一つだけではありません。非常に難しく複雑な状況です。フレデリクセン博士は効率的な配分の問題を指摘されました。進歩の度合いが様々なので、一つのアプローチではすべての国々のニーズに対応できません。国のオーナーシップや調和化についても討議しました。それらを推進しなければなりません。ODAを推進するとき、それをどう定義すればいいのでしょうか。何がODAの最適な配分と言えるのでしょうか。各ドナーや各国の目標は何でしょうか。ODAが終了することを前提として、被援助国はODAにどのような目的を持つのでしょうか。ODAの提供方法についても見直す必要があります。もし自立した開発を目指すなら、援助に対する見方を変え、援助資源の効率的な配分とは何か、すなわち、どのように資源を活用するか、目的は何か、どのようにして最大の成果や結果を出すかを明らかにしなければなりません。受益国がオーナーシップを持てるように開発を活用しなければなりません。それは宣言にも謳われています。私たちは多くの基本的な質問に答えていかなければなりません。それを考えないで、有効性を高めることはできません。しかし今日の討議を2015年に向けてという短期的な課題としてまとめることができるのでしょうか。私たちは2015年以降へ

の大きな影響を考えなければなりません。そのため、これまでの活動や援助の有効性を批判的に振り返って考える必要があります。昨年の援助の有効性に関する釜山でのハイレベル会合は、その報告書を見る限りこれらの重要なテーマはあまり反映されていないと思います。私たちは今までの活動を批判的に振り返り、国際社会の一員として、これからの新しいアジェンダを設定しなければなりません。協力するための共通目標は何でしょうか。批判的にこれまでのことを振り返ることによって、これらの目標を設定し、活動の共通ビジョンを持つ必要があります。これはまとめではなく、今日の討議内容に関する私個人の考えだと思っていただければ幸いです。まずナンポタ先生にコメントをいただいた後、ムバンガ先生、フレデリクセン博士にもお話ししたいと思っています。

#### ドロシー・ナンポタ（マラウイ大学教育研究訓練センター長）

ありがとうございます。まとめにあたり、パネルセッションについてももう少しお話ししたいと思います。JICA からコミットメントと開発途上国への援助におけるパラダイムシフトの問題について話していただきました。私たちはドナーパートナーから途上国の支援を続けるという多くのコミットメントをいただき、JICA から途上国にアラインした援助をするというコミットメントをいただきました。これはよい成果だと思います。ドナー国の視点からは、援助を有効に実施するために、社会的な状況を理解することが最も重要です。途上国の政策と教育アクセスの問題のアラインメントについて興味深い分野があることが指摘されました。これらの問題について、私たちは非常によく取り組んできました。しかし教育の妥当性や、実際に子どもたちが学んでいるかという問題が残っています。質の問題にもまだ取り組まなければなりません。JICA が被援助国の政策とプロジェクトのアラインメントを約束したことは、途上国の残っている課題を解決する上で、トンネルの向こうに光が見えたように思います。その意味で、途上国はよりよい成果を上げるために、妥当性や、実際にどのように学習が行われているか、どのようなカリキュラムか、何が実際に教室で行われているか等の課題に再度焦点を当てる必要があります。協力の重要性の問題は、私たちはあまり言及しませんでした。協力の問題は、開発のパートナーとして、共通目標をめざして互いに学び合うことも含みます。今日持ち帰れるよいメッセージの一つが、取り組む姿勢に変化が生じたりコミットメントが共同のアジェンダに合わせたものであろうと、共通の目標があれば援助する側とされる側のどちらの立場がよいということはないということです。共通の目標が達成され守られるためには、協力が必要です。これが、今日の議論のまとめとして私が言えることです。私たちはよい方向に向かっていますが、姿勢を変える必要があります。開発のアジェンダの中でより注目しなければならない分野をより重視することが必要です。

#### ルース・M・ムバンガ（ザンビア教育省教師教育局長）

ありがとうございます。総括ということですが、官民についての質問に、まだ答えていません。この点は開発援助の方法としては十分に検討されておらず、民間セクターが教育分野に関わるような働きかけはほとんどされていません。途上国には必要なものの買い物リストがあります。パラダイムシフトについてですが、実際に必要なものは何か、何をしなければならないかについて、各国から発言するというパラダイムシフトも必要です。多くの課題があるのは確かですが、優先事項の中で、もし取り組めば開発の触媒になるのは何でしょうか。どうなって欲しいと思っているかを明らかにすることも必要です。教育分野は大きく変わるだろうと言われ続けていますが、皆様の2020年のビジョンは何ですか。私たちは繁栄した中所得国になりたいと思っていますが、それがどのような状態なのかは明確に示していません。そこに到達したかどうかはどのようにわかるのでしょうか。私たちはどのような変化を期待しているのでしょうか。これらがすべてわかれば、私たちは開発パートナーとテーブルについて、こうなって欲しいと言うことができます。それがすべ

での教育分野を変える触媒となるでしょう。しかしまだそこまで至っていないと思います。私たちは何が必要かを開発パートナーが明確にしてくれるのを、ただ待っています。皆、2015年に向けて活動しています。私たちはそれに焦点を当ててきました。2015年になったらどうするか、それ以降のことはまだ考え始めていません。技能開発教育は貧困から脱出するパスポートです。卒業すれば家族のために貧困から抜け出すことができるような教育を市民は望んでいます。しかし高校後の教育の現状を見ると、教育を受けても何もできません。技能開発はカリキュラムの中で無視されています。ドナーと被援助国側の双方にパラダイムシフトはあると私は思います。何よりも互いに尊重して話し合うことが重要です。被援助国は何が必要かを言ってもらうのではなく、何を望むかを交渉できるようになるべきです。非常に困窮しているため、必要と言われたものを何でも受け入れるかもしれませんが、私たちがどうなりたいかを明確にし、どのような援助を望むと明言できれば、協力パートナーとの相互の合意は非常に容易になるのではないのでしょうか。

### ビルガー・フレデリクセン（元世界銀行アフリカ地域人間開発局長）

まず主催者に感謝申し上げます。これまで40年ほど様々な会議に出席してきたうちで、今回のフォーラムは最もよい会議の一つでした。開発協力に対して前向きで重要な討議ができました。この素晴らしい年次教育フォーラムを開催された各機関の皆様に感謝申し上げます。さて、中国からの参加者がアフリカ学の必要性を訴えたことについて触れたいと思います。非常によい意見だと思います。アフリカの開発について話すとき、アフリカが一つの国のように言う傾向にあります。しかしアフリカは非常に多様な地域で、国によって教育のレベルも問題も大きく異なるため、何について話しているのかを知っていることが非常に重要です。例えば1960年に多くのサブサハラ・アフリカ諸国が独立したとき、サブサハラ・アフリカにおける初等教育の平均就学率は約40%でしたが、ブルキナ、エチオピア、マリ、ニジェールのような国々は10%以下でした。またニジェールやブルキナには中等学校が1校もありませんでした。初等教育レベルでは各国の格差が縮まっていますが、中等教育や高等教育では格差が広がっている場合がしばしばあります。

また、「日本モデル」についても述べたいと思います。非常に明確な日本モデルがあるかどうかは別にして（私はあると思いますが）、「東アジアのアプローチ」があるのは確かだと思います。主要な東アジア諸国（韓国、シンガポール、台湾、そして後にベトナム）が第二次世界大戦後に教育制度を発達させたようなアプローチです。これらの東アジア諸国では多くのサブサハラ・アフリカ諸国と比べて普遍的初等教育や識字率の公的予算の優先順位が高いほか、雇用創出や経済成長の共有を非常に重視しているなど、教育と経済開発の優先順位が非常に高いといえます。多くのサブサハラ・アフリカ諸国では、普遍的基礎教育および成長の共有が必ずしも大きな目標となっておりません。東アジアではまた、教育政策や経済政策になるとドグマティズムよりプラグマティズムを優先するようです。たとえば中国の鄧小平元中央軍事委員会主席は、「白猫でも黒猫でもねずみを捕る猫が良い猫だ」と言いました。もし何かをやってみて、うまくいかなければやり方を変えて別のことを試すという考え方です。このようなことが東アジアの特徴であり、他の国々も学べると思います。

私はまた、よりよい援助協調の必要性について話しました。よりエビデンスに基づいて配分することも、また国の状況に合わせて各国で最も大きなインパクトがあると思われる場所に配分することも必要です。しかし資金を増額するだけでは最善の援助とは思いません。援助は追加性が必要です。もし援助によって状況を改善したいと思うなら、被援助国が資金を教育ではなく、より生産性の低いものに転用することは望まないでしょう。貧しい国々を支援するときには追加性もあると思います。貧しい国々では教員の給与も払えないようなことが多く、援助がなければ資金がないような他の重要な教育のインプットに対して資金を提供することで、これらの国々を支援できます。これは援助の比較優位性です。すなわち優先順位が高い投資の



ために追加性を提供することです。また、パリ宣言はドナー間の役割分担を主張しており、JICA は中等教育の理数科教育というよい援助分野を見いだしました。これは優先順位が高い分野ですが投資が不足しています。ニーズはあるので、何か追加性のあるものに焦点を当てるべきです。中国が多くの国々で行っているような資本投資も、持続可能なやり方で投資が行われれば、援助の比較優位性があるといえるでしょう。高等教育も中等教育も発展させなければなりません。私は能力構築のためにソフト面の投資が必要だと主張してきましたが、かといって資本投資を支援するべきではないとは言っていない。アフリカはインフラを非常に必要としています。

最後に、より質の高い援助をするには、よりエビデンスに基づいた援助の配分と活用が必要であると強調したいと思います。多くの新興ドナーが生まれており、官民パートナーシップは教育分野においても、より大きな役割を果たすようになるでしょう。そのため、様々な援助資金を全体的に有効に活用するためには、全関係者の協調が必要です。よりよいグローバルな協調とは、援助配分を細かく管理することではなく、全世界が重要性を認識しているにもかかわらず深刻な資金不足に直面している主要な分野に対して、より多くの資金を確保することです（例えば、女性の識字率、就学前教育、人類に共通の地球公共財、技術協力など）。また、すべてのドナーが同じアプローチに従わねばならないということもありません。実際、従うべきではありません。例えば日本や米国など多くの国々は予算支援に消極的です。それは構いません。様々な援助モダリティがあっいいのです。ただし協調が必要です。これこそ最善のアプローチというものが存在するわけではなく、援助対象を決めて実施する援助も、予算支援をする援助もあります。教員に給与を支払えないかもしれない貧困国が、シンガポールや日本の過去の経験を学ぶために、教育計画立案者や政策立案者をこれらの国々に送る余裕がないと思ったとしても当然かもしれません。しかしそのような学習や知識の交流は、非常に有効な援助となりえます。ドナーは地域的な協力に進んで資金を提供するべきです。その意味でも SEAMEO のプレゼンテーションを聞いたのは非常によかったです。すぐれた実績のある機関を支援するために、アフリカのドナー機関がより多くの資金を提供して欲しいと思います。JICA はまたアジアとアフリカの大学間協力における知識交換やネットワークの支援で実績を上げています。これは非常に有効な援助資金の活用法だと思います。アフリカではまた、地域協力が非常に重要です。人口が 200 万人以下の国がアフリカでは十数カ国あります。人口 100 万人以下の国も沢山あります。つまり、本格的な教育制度を確立するためには他の国々と協力する必要があります。

ご質問、ありがとうございました。またお招きくださり、ありがとうございました。

## 吉田和浩（広島大学）

そろそろ終了の時間がきました。講演者の皆様に感謝いたします。またご参加下さった皆様にご本日のフォーラムを楽しんでいただけましたら幸いです。これでプログラムを終了いたします。どうもありがとうございました。